The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Gallia　54号　あとがき/奥付
Author(s)	山上, 浩嗣
Citation	Gallia. 2015, 54, p. 184-184
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61966
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

あ と が き

赤木昭三先生のご主著『フランス近代の反宗教思想』は、大学院生のころ、刊行直後に夢中になって読みました。複雑多岐な事象が扱われているにもかかわらず、この上なく明晰な論述のおかげで、門外漢であった私にも理解は容易でした。珍妙な論理や荒唐無稽なたとえ話で神を否定したり、魂の不死性を否認したりするリベルタンたちの言辞に笑わされたり戦慄を覚えたりしながら、赤木先生の途方もない学識と、この研究に費やされた膨大な時間とご苦労を思い、嘆息したのを覚えています。

あらためて本書を開いてみると、こんな記述に出会います。

「リベルタンの語の十七世紀的な意味としては、「不信仰者」とともに「放蕩者」をも含んで、独特の雰囲気を持つが、その名の示すとおり、居酒屋にたむろして、瀆神の悪罵を吐き散らす放蕩無頼の反抗者から、典雅なエピキュリアンやサロンのオネットム、さらには、私生活がまるで話題にならなかった、酒も飲まない本の虫まで、その変化の面白さには事欠かない。」（4 頁）

なんとも味わい深い一文です。赤木先生のご研究を支えていたのは、どこか憎めないこれら不届き者たちに向けられた温かい眼差しだったことがよくわかります。先生の端正で緻密な文章には、大らかな人間愛があふれています。

私は（遠くから一方的にお姿を拝見したことを除けば）赤木先生にお目にかかったことはありませんが、阪大に赴任してから、何度かご厚情に満ちた励ましのお便りを頂戴しました。本号に寄せられた追悼エッセーのひとつひとつからも、学問に厳しくも思いやり深い先生のお人柄が偲ばれます。直接ご指導を賜る機会に恵まれないまま、先生が去られてしまったことは痛恨の極みですが、先生が仏文研究室に残してくださった貴重な書物や資料が、私たち後進の歩みをずっと見守ってくれているような気がします。

ところで、本会会員の藤平シルヴィ先生が、急遽この三月をもって大阪大学を退職され、フランスに帰国されることになりました。藤平先生の大阪外国語大学および大阪大学での教育・研究上のご功績に敬意を表しますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

末筆となりましたが、本号にご寄稿くださったみなさま、編集委員各位、編集担当の学生諸君に感謝申し上げます。

（山上　浩嗣）

GALLIA LIV

2015年３月１日印刷・３月７日発行

編集発行者　大阪大学フランス語フランス文学会
代表者　和　田　章　男

〒560-8532　豊中市待兼山町１番５号
大阪大学文学研究科・文学部フランス文学研究室内
tel. & fax : 06-6850-5117
e-mail : contact@gallia.jp
URL : http://www.gallia.jp/